

ピロリ菌除菌で、潰瘍再発や癌を予防しましょう

ピロリ菌という細菌をご存知でしょうか？

正式名称は「ヘリコバクター・ピロリ菌」という、胃の中でも生きられる特殊な細菌で、全人類の半分が保有しているといわれています。日本人も人口の半分、約 6000 万人が感染しており、特に 50 歳代以上は、8割 9割が保有していると考えられています。慢性胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍の患者さんはピロリ菌に感染していることが多く、慢性胃炎の発症の原因や、潰瘍の再発に関係していることがわかっています。また、慢性胃炎を引き金として、胃癌の原因となることもわかってきました。ピロリ菌感染をしていない人の胃癌発症頻度は10年で0%であったのに対し、ピロリ菌感染者は10年で2.9%の人が胃癌を発症したという報告があります。



ピロリ菌は2種類の抗菌薬と1種類の胃酸の分泌を押さえる薬を組み合わせ、それらを1週間内服することで除菌することができます。この除菌治療は、以前は胃・十二指腸潰瘍の既往がある方のみ保険適応でしたが、現在は慢性胃炎の存在を内視鏡などで確認されていれば保険で除菌をすることができます。



ピロリ菌の検査はいろいろなものがありますが、最も簡便で誤判定も少ないものとして尿素呼気試験があります。絶食で息を採取するのみですので、患者さんの苦痛はほとんどありません。



阿南病院には、比較的苦しくなく受けられる経鼻内視鏡（鼻からの内視鏡）もありますので、胃の調子が気になる方は内科を受診していただき、内視鏡検査や尿素呼気試験を受けられることも検討してみてください。

和みの医療センター 長野県立阿南病院

☎ 22-2121

内科医長 高橋